



久々の賑やか山頂

北東北 鳥海山御田ヶ原ルート

古野

【日時】 2014年5月3日～5日

【メンバー】 古野(L)、手嶋、鈴木、横山

ここ数年、鳥海山頂にはたどり着けないでいる。昨年も悪天で入山口から引き返した。同行していた遠藤さんから今年は是非の話もあり、とっておきの御田ヶ原ルート（以前は法体の滝ルートとして記録にしたが堰場からも入れるのでこの名称がふさわしいと思う。）を選んだ。このルートの懸念点は2つある。一つは鳥海林道の除雪状態。もう一つは下玉田川の渡渉である。渡渉については地形図に点線の道があるが不安なので沢靴を持っていくことにする。アタックの4日は天気予報がまずまずなので八幡平を転進先にして悩んだものの決行とする。

花立から堰場までの近道が豪雨被害で通行止めということもあり、今年は古川ICから松の木峠を越えるルートに変更。いつもは帰りに立ち寄る道の駅で山菜を探す。手嶋さんが何かやっていると思ったら「タラの芽の詰め放題だぞ!」と興奮気味。

東北復興のためという都合の良い大義名分を見つけ出して道の駅と鳥海山荘手前の直売場で今日の分を確保した。

堰場からの鳥海林道は除雪がされていたが開通はしていない。自己責任で恐る恐る進行。幸い出発地点候補だった貯水池までは開いていた。駐車場所をスコップで掘り、誠意を見せる。

次の課題は渡渉である。急斜面を下って川岸に立つと結構な水量である。橋は跡形も無く、ブリッジと渡渉点を探して下流まで偵察するがなかなか良いところが無い。戻って堰堤下のコンクリート部分が浅そうで、下るのに鉄棒の階段があることから渡渉点に決定。幸い膝下ぐらいの水かさで危険は無かった。「そういえば以前のGWは良く渡渉していたな」と感慨も。



朱ノ又川との合流点付近から大地に上がる部分は傾斜がきつく、上部は雪も切れていて一汗かいてしまった。

3時頃に寒冷前線が通って雨になる、という予報に先を急ぐ。空は段々暗くなってきてBP予定の下玉田川支流に近づいた時点で好適地を見つけてザックを降ろす。

ここで問題が発覚。この支流が雪で埋まってしまって水を採れない。仕方なく下流を偵察に行くが結局本流までダメで、本流に降りるのは厳しそうと云うことで諦めて戻る。



戻ってみると鈴木さんが大きな焚き火をしていた。「この火で水を作ろう」と云うことになり、ビリーを火に掛けると瞬く間に水が出来た。長年春の山スキーをやっているがこれは全員「新しい発見!」と感激しきり。ただどうもこの水は油が浮いているようなまずさがあったがブナの芽のせいだろうということで焚き火での水造りという発見に水を差すものにはならなかった。雪山にもビリー缶は有効だ。

恒例の山菜天ぷらから宴会が始まる。雨はそれほどでも無く、しばらくは雪のテーブルが活躍したが寒冷前線の通過と共に気温が下がってきてテントに追い込まれてしまう。夜分風の音が気になったが早めに就寝。

風の音は時々するが「何とか止むだろう」という楽観論に賛同。天気は快晴だ。

一度来たルートなので景色に馴染みがある。緩い傾斜を登り、少し北に向きを変えるあたりは平で正面に鳥海全体が姿を見せる。ここからは斜め左に灌木帯沿いに登る。風は少しは息継ぎが長くなってきた。灌木帯を過ぎると広い、急斜面で、最初のガンバリどころ



である。この上に御田ヶ原がある。実は記憶に無かったのだが御田ヶ原の先に似たような平らな場所があったのだ。ここから山頂まで急な登りが続く。でも天気も良く、ペースもそこそこで「これなら山頂に早めに行けそうだ」と誰もが思っていた。

実は伏兵がいた。昨夜からの気温の低下で雪面はプレーカブルクラストになっていたのだが、表面の氷が徐々に厚く、固くなっていく。足を強く蹴り込まないとクトーを付けていても滑ってしまう。しかも横山君はクトーを持っていない。



足を使っていると筋肉の負担が大きく、痙攣してくる。「コムラケア」で対処するがそれでもアブナイ。頂上に近づくとつれてものすごい人が「どこからわき出してきたの?」と云うぐらいに斜面を埋める。

それでも雪が固いことに変わり無く、30m位下でまた足が吊ってしまった。なんだかんだで、結局1時近くになってへろへろで最後に辿り着いた。出発を30分早められた貯金をすべて使い切ってしまった。でも着いたのだ、久々に。

固い雪を滑れるかが心配だったがそれほど無く、何とかかなりそうだ。シュプールを描くと表面の氷のかけらが「サラサラ」と音を立てて滑り落ちる。斜面は広大で凹凸も少ない。体調が悪い手嶋さんもさすがのターンを決める。横山君のきれいなシュプールにも驚いた。下ってくると我がパーティーの貸し切りである。雪が少し柔らかくなると「安心、快適」となり、振り返れば自分たちのシュプールに自己満足。

「シュプールを重ねないで平行に滑ろう」と余裕も出てきた。一部クレパスがあったりしたが、赤布を回収しながら、薪をお土産にBCへ。

「達成感を伴ったのんびりしたひととき」ほど至福のモノは無いだろう。水の音と溪の恵みと華は無いものの幸せな時間を楽しんだ。頭の片隅では「もうこれが最後の鳥海かな?」という登りの辛さを反芻しながらではあったが。

予報通りのどんよりした空ではあるが雨は来っていない。今日は下るだけだが、渡渉が待っている。台地からはうまくルンゼを滑り降りて、来た時より少し下流の川底がコンクリートの所を渡ること。ここがどうも橋があった所ようである。朝なので雪代が少なく、心配したほどでは無かった。

登り返すと貯水池まではすぐである。鳥海山荘ではまだ八重桜が満開だった。覚悟していた渋滞は予想通りであったが、山頂に届いた、という余韻でイラつくことも無かった。来年は八幡平を目指そうか、という話しに傾いていた。さてどうなることやら。



【行程】

5/3 貯水池出発(10:00)～渡渉(13:35/14:25)～テン場(14:20)

5/4 BP出(5:30)～御田ヶ原(8:08)～七高山山頂(12:20/55)～BP(14:40)

5/5 BP(5:55)～貯水池(8:25)

【地図】鳥海山、中直根